

中国海軍ニュース：南シナ海の3つの不沈空母

漢和防務評論 20180806(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国が南シナ海の珊瑚礁を埋め立てて建設した人工島のうち、3つは、3000メートル級の軍用滑走路と軍港を備えた完全な軍事基地に変貌しました。この3つの人工島は、南シナ海を中心部に位置し、一辺が200KM、194KM、294KMの3角形を形成しています。(添付の地図参照)
この3角形に囲まれた海域の内外の珊瑚礁にもヘリポートや小さな埠頭を備えた軍事拠点が建設されています。
グーグルアースで検索すると、最新の状況に近い衛星画像を見ることができます。

KDR 香港特電：

KDR は、中国が建設した南シナ海の3つの人工島の規模を改めて確認した。それぞれ大型飛行場、軍港はすでに完成し、完全に軍事基地化されている。この3つの”不沈空母”上には、地対空ミサイル陣地が建設され、地対艦ミサイル陣地らしきものもある。南シナ海全体を途中で遮断する意図があるようだ。米国やオーストラリアの軍は、南シナ海を南から北へ進出することが不可能になる。

①永暑礁(FIERY CROSS REEF、北緯9度33分34.2秒東経112度54分)は、軍用機滑走路の長さが3000M、軍用岸壁の1辺の長さが730Mある。2種類の衛星写真を対比したところ、：各種格納庫が16棟、他に3個の大型修理用格納庫があった。大小のアンテナが19基、これは、戦略支援軍の無線信号傍受ステーションの可能性が極めて高い。

全体的に見て、建設規模からわかったことは、全ての人工島が、国際的関心が薄れた頃を見計らって、引き続き拡大が図られる可能性があることだ。拡大の方式は、環状或いは半環状の環礁を連結して一体化する方式である。したがって多くの建設作業船は2018年3月になっても現場に居残ったままであり、建設が継続している。占有面積は、海軍と空軍で半分づつ分けるのだろうか？中国軍内部には、巨大な利益集団があり、各自の基地を獲得しようとしている。このことは、建設費用も分担している可能性がある。

②渚碧礁(SUBI REEF、北緯10度54分4.8秒東経114度03分41.4秒)は、最も大型の人工島であり、馬蹄形の珊瑚礁はすでに埋め立てにより連結している。このようにして包囲された海面は内海となる。環礁外から発射された艦対艦ミサイルは、内海の艦船に対しては攻撃がむつかしいだろう。滑走路は3000Mあり、大型の整備用格納庫が4棟、各種格納庫が22棟ある。

③美濟礁(MISCHIEF REEF、北緯 9 度 52 分 51.6 秒東経 115 度 31 分 15.6 秒)は、後から来たものが上座に座る。環礁の直径は 8KM あり、珊瑚礁の上には、別に 2 個所、人工島の建設が始まった。最終的には一体として連結すると思われる。滑走路の長さは 3000M、島の西側には 4 基の大型アンテナが建設されている。用途は不明である。24 個の格納庫、4 個の大型整備用格納庫がある。格納庫の形状は全て同じであり、密閉式である。さらに建設中である。

KDR の格納庫数量分析によると：22 個の格納庫がある飛行場は海軍用で、24 個の格納庫がある飛行場は空軍用のはずである。しかしさらに建設中である。永暑礁からマラッカ海峡までの距離は、1300KM で、巡航ミサイルや戦闘機の行動範囲である。

以上

